

研究計画書

ゼミ名	市野ゼミⅡ	チーム名	元気☆モリガ
タイトル	こんな大学、行きたかった ～今正直不安です～		
テーマ群	a)理論・情報 c)公共経済		
メンバー	安東利恵 右近亮平 葛西昌吾 金基成 樹梨奏美 田邊祐佳 永井圭子 西和輝 野澤義一 長谷川貴央 浜本夏実 東孝 藤川よう子 松倉梨紗 南谷真紀 宮西聡 村田明未 森賀俊貴 山初和輝 山本達馬 渡辺朝子		
研究計画内容	<p>就職活動を目前に控えた私たち。「自分は就職できるか?」「企業が求める力は身につけているか?…いや、自信がない…」この不安の原因は、自分が企業に評価される人材なのか?自分は面接で企業からの質問に的確に答えられるのか?大学で自分は何をしてきたか?これらの問いに対して、何て答えていいのか分からない、答えるものがない、ということである。そのような不安を持つのはもちろん、私たちが大学であまり勉強しなかったから、ということとは否定できない。しかしこの不安は、私たちだけでなく多くの学生が抱える不安だろう。たしかに個人がもっと努力することで解決される問題もある。しかし多くの学生が同じような不安を感じているのであれば、それは、学生一人ひとりが努力すればそれで解決するような問題ではなく、大学教育のありかたも変えなければ解決しない問題なのではないだろうか。大学は教育というサービスを提供しており、その買い手である学生のみが頑張る必要はない。売り手である大学もまた頑張らなければならないだろう。学生一人ひとりがもっと頑張りたい、就職に不安を持たなくて済む、「私は大学でこんなことをしました。」と胸を張って学生が言える、そんな大学になればいい。</p> <p>私たちは既存の大学にはなかった、主体性を持った学生を育てることができ新しい大学教育プログラムを提案する。現在、企業は学生に専門知識よりも主体性を身につけた人材を求めているが、今の大学は主体性のある学生を十分に育てることができていない。私たちはまずその事実をデータや参考文献を元に示す。次に、教養や専門知識が主体性を身に付けるための一つのツールであること、言い換えれば、主体性を身につけるためには教養や専門知識の学習が必要不可欠であることを議論する。そして、甲南大学のような一般的な大学と、企業から高い評価を得ている他大学とを比較し、相違点を分析する。この分析を踏まえ、一般的な大学だけでなく企業から高い評価を得ている大学にも更に改善すべき点がないか研究する。この研究は、私たちそして多くの大学生が抱えている不安を解消する提案である。</p>		